

乳幼児の主な感染症と登園の基準

病 名	主 な 症 状	登園してよいかどうか
水ぼうそう	おなかや背中に赤い虫刺されみたいなものが数個生じ、ほぼ一日のうちに急速に水泡になる。水泡は体や顔に広がり、口の中や髪の毛の中にもできる。発疹は1週間もすれば乾いてかさぶたになる。	全ての発疹がかさぶたになるまで登園禁止。
風 疹 (三日ばしか)	軽い熱と共に顔や首に細かくて赤い小さな発疹がびっしりと出てきて、体や手足に広がり、手のひらや足の裏までできることがある。首や後頭部のリンパ節が腫れてくるのが特徴。 発疹は3日ほどで消え、熱も下がる。	発疹がすっかり消えるまでは登園禁止。 妊娠3ヶ月以内の女性は要注意。
手足口病	手、足に小さな水泡ができ、口の中にも小さな噴火口みたいな口内炎を生じるのが特徴。手足の水疱は、手のひらや足の裏にもできる。おしりにも発疹が出ることもあるが、その他の部分には出ない。軽い熱やのどの痛みを伴うこともある。	熱が高い・元気がない・食欲がないといった症状があるうちは安静が必要であるが、それがなくなれば、登園してよし。 発病してからの隔離(感染防止)は無意味。
リンゴ病	両方のほっぺたがリンゴのように赤くなる。その部分は少し盛り上がり、さわってみると少し熱をもっている。腕、脚にレース模様のように発疹が出る。	熱が出たりしていなければ、休ませる必要はない。 妊娠中の女性はなるべく接触しないように気をつけた方がよいが、もし感染しても、異常児の生まれる心配はない。 (胎児に影響があった場合は流産する)
はしか	10～13日の潜伏期の後に高熱で始まる。熱は38～39度とかなり高く、一向に下がる様子を見せない。同時に咳、鼻水、結膜炎などの症状も現れる。こうした熱が3～4日続いた後、熱がほんの少し下がったかなという感じになって、その後すぐに前よりもっと高い熱が出てくる。と同時に赤い小さな発疹も出る。発疹は耳の後ろから出始め、顔、体と広がっていく。発疹はたくさんできて、やがて一つ一つの発疹がくっついてまだらになる。高熱と発疹は4～5日続いて治るが、この間、当人も世話する人も大変つらい。	解熱した後、3日間は登園禁止。 体力が戻り、元気が出てくるまで自宅療養するのが better。

おたふくかぜ	耳下腺が腫れて痛む。3～7 日ほどで腫れはひくが、両側の耳下腺が腫れる場合は10 日ほどかかることもある。	耳下腺の腫れがある間はウイルスの排泄が多いので、腫れがひくまで登園禁止。(5 日経過した後)
とびひ	黄褐色のかさぶたみみたいなものができている所の中に赤くただれたような部分もあり、その周囲はほんのり赤いというような形で、指の先ぐらいの大きさまでのものがあちこちにできる。	ジクジクしているうちは登園禁止。 やむを得ない場合は、感染しないようにガーゼ等で覆う。
溶連菌感染症 (猩紅熱)	のどの痛みで始まり寒けがして数時間のうちに 38～39 度に発熱する。初期には食欲不振や嘔吐もみられる。のどが赤く腫れ、痛む。1～2 日たつと赤く細かい発疹が首や胸のあたりから現れて全身に広がる。顔の発疹は口の周囲にだけは現れない。3～4 日たつと、舌の白い厚い苔がはがれてイチゴのようなぶつぶつのある赤い舌になることも特徴。	適切な抗生剤治療後、24 時間経過するまでは登園禁止。感染の危険がなくなったことを、医師に確認してから登園可。 治療が不十分だと、リウマチや腎炎を起こすことがある。
百日咳	コンコンコンコンコンと続けざまに、息つきなしに咳こみ、顔が真っ赤になる。そしてその咳こみの最後にひゅっという音をさせて大きく息を吸い込む。	登園禁止 (5日間の抗菌剤投与した後、医師の判断による) 赤ちゃんは要注意。
水イボ	直径 1～3mm の、表面がなめらかで、肌色から淡紅色をしたやわらかいドーム状の丘疹が、衣服で覆われた部位や皮膚がこすれ合う部位に、1 個あるいはばらばらと多発する。	登園しても構わない。 ほおっておけば免疫ができて自然に治るが、それまで数ヶ月かかり、その間も増え続け、感染する。 体をきれいに洗った上で、プールも可。 ビート板、うき輪の共有はしない。
プール熱	39 度前後の高熱が 4・5 日続き、のどの痛み、咳、目やにや目の充血がある。さらに頭痛、吐き気、腹痛、下痢を伴うこともある。	発熱、咽頭炎、結膜炎などの症状が消えてから、2 日経過するまで登園禁止。
インフル エンザ	突然の高熱や強い頭痛、全身倦怠感、筋肉や関節の痛み、食欲不振など。 咽頭痛、咳、くしゃみ、鼻水、嘔吐、下痢、腹痛などを伴うこともある。肺炎や脳炎など重い合併症もあるので注意が必要。	解熱後、3 日経過するまでは登園禁止。 体力が正常化すれば登園可能。

突発性発疹	母体免疫が消失する生後六か月以後に、高熱が2～7日続き、解熱とともに胸、腹、背部に麻疹様、風疹様の紅色発疹が出る。熱性けいれんに要注意。	解熱後、体力が回復すれば可。
ヘルパンギーナ	発熱は一日または無し。口に小水疱ができて痛い。そのため食欲が減退するが3～4日で治癒。手足口病とともに、夏に流行する。	体調改善すれば可。
マイコプラズマ肺炎	食欲不振、体重減少、発熱、頑固な咳、特に夜間。症状に比較して、全身状態は悪くない。	適切な抗菌薬により軽快すれば可能。急性期は出席停止。
RSウイルス	感染後4～5日の潜伏期ののち、鼻汁、咳、発熱などの上気道症状が現れます。炎症が下気道まで波及して、気管支炎を発症する。乳児・基礎疾患のある小児は重症化しやすい。細気管支炎にかかったあとは、長期にわたって喘鳴を繰り返しやすい。	解熱後、体力回復すれば可。喘鳴があるうちは安静。
コロナウイルス	発熱、喉の痛み、咳、倦怠感など風邪やインフルエンザに似た症状や、嗅覚・味覚異常や下痢なども現れる。	発症した後、5日を経過し、かつ症状が回復した後、24時間が経っている。無症状の場合は検体を採取した日から5日を経過するまで
感染性胃腸炎	突然の嘔吐・下痢・腹痛・発熱などの症状を起こす。ウイルスによって起こるウイルス性と細菌によって起こる細菌性がある。	症状が回復するまでは登園禁止 ※低血糖や脱水に気を付ける

